

【関西学院大学国際学部 開設 10 周年記念講演会】

米中の覇権争いと日本の対応

開催日：2021年11月26日（金）13：20-15：00

於：関西学院大学 上ヶ原キャンパス B 304 教室

講師：太田 泰彦（日本経済新聞編集委員）

田原 徳容（読売新聞社アジア総局長）

伊藤 正一（関西外国語大学教授、関西学院大学名誉教授、国際学部初代学部長）

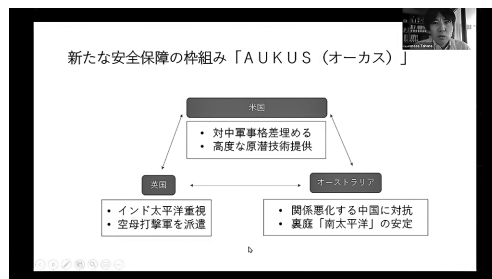
総合司会：宮田由紀夫（国際学部長）

11月26日（金）に国際学部開設10周年記念講演会「米中の覇権争いと日本の対応」が開催され、国際学部の在学生や退職教員を含む約100名が参加しました。まず、元国際学部開設準備委員会委員長・初代学部長の伊藤正一名誉教授から国際学部開設の経緯についてご挨拶いただきました。読売新聞アジア総局長の田原徳容先生からは「インド太平洋地域を巡る米中の覇権争いの現状と今後」というテーマで、今日、海洋国家としての覇権を握ろうとする中国をアメリカが単独ではなく多国間の枠組みで封じ込めようとしていることとお話いただきました。日本経済新聞編集委員の太田泰彦先生からは「デジタル冷戦の行方は」というテーマで、中国のデジタル技術の活況をご紹介いただくとともに、米中対立はかつての米ソ冷戦時代と異なり、経済の依存関係が強く、また産業力競争と地政学的競争が密接に絡んでいること、半導体の有力供給源である台湾が中国の軍事手脅威にさらされていることとお話いただきました。その後、伊藤正一先生司会のもと、パネルディスカッション・質疑応答が行われましたが、中国の軍事技術の具体的な脅威、日本の半導体産業再生の可能性、アジア諸国が米中両国への微妙な距離感を維持しているしたたかさについてなど、広範な議論が行われました。

最後に、村田治学長が国際学部の発展の歩みを振り返りながら、今後への期待についてお話をいただきました。



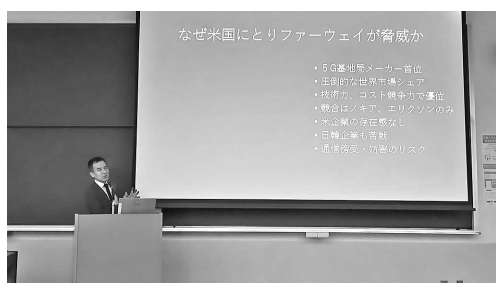
伊藤先生ご挨拶



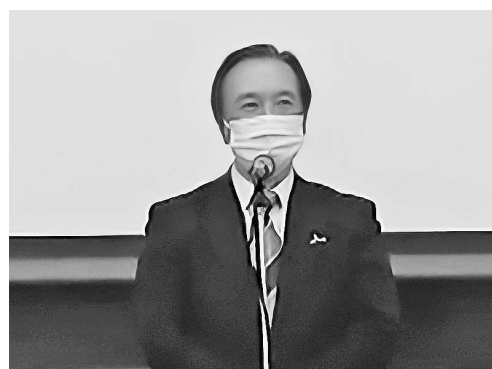
田原先生ご講演
(シンガポールより ZOOM 参加)



パネルディスカッション



太田先生ご講演



村田学長ご挨拶